



令和 8 年 1 月 5 日

東京都渋谷区区長 長谷部 健 様
東京都渋谷区区議会議長 一柳 直宏 様

(一社) 日本イコモス国内委員会委員長

岡田保良

文化的景観国内学術委員会主査

石川 幹子

産業遺産国内学術委員会主査

伊東 孝

住所：〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-8

神田小川町三丁目ビル 4F 文化財保存計画協会 気付

Tel/Fax 03-3261-5303 Email jpicomos@japan-icomos.org



江戸・東京 400 年の文化資産である

「玉川上水」の歴史と文化の保全と継承に向けた提言

はじめに

国際都市として政治・経済・文化の中核である東京は、江戸開府以来、400 年に渡る文化資産の蓄積により、その基層が支えられています。武蔵野台地が江戸湊に開け、遙かに富士の靈峰を仰ぐ地に、江戸城を中心とし大小 300 以上の「林泉」が営まれ、下町の水路網により、文化と経済が共存する類まれな都市が創り出されてきました。

玉川上水は、江戸初期にあたる 1653 年、多摩川の羽村取水堰から四谷大木戸まで約 43km にわたって開削されました。後には江戸市中の 100 万人の人口を支えることとなる上水路です。その後、数多くの分水路が整備され、農業用水としても重要な役割を果たしてきました。現在でも、東京都の水道水の 3 分の 1 を供給している現役の用水路で、貴重な土木遺産であり文化資産といえます¹⁾²⁾³⁾。

I. 淀橋浄水場廃止に伴う玉川上水の変貌

昭和 40 年 (1965)、淀橋浄水場が廃止され、東村山浄水場に送水が行われることとなり、玉川上水は大きな変貌を遂げ、今日に至っています。上流部は羽村取水堰から小平監視所までの約 12 km で、東京都の水道の導水区間として維持されています。中流部は小平監視所から杉並区浅間橋までの約 18km で、通水がなくなり「空堀」となっていましたが、沿川自治体からの要望により、昭和 61 年 (1986) に多摩川上流水再生センターより高度処理水が導入され、清流が復活しています⁴⁾。下流部は杉並区浅間橋から新宿区四谷大木戸



までの約 13 kmで、3 カ所の開渠部が残されていますが、多くのエリアは、覆蓋化され緑道（都市公園）として活用されています。通水はありませんが、貴重な水と緑の回廊となっています。

2. 土木遺産及び文化資産としての玉川上水保全の取り組み

玉川上水を保全・継承する取り組みは、この間、手厚く行われてきました。平成 11 年（1999）には、「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、東京都は玉川上水の開渠部分を「東京都玉川上水歴史環境保全地域」⁵⁾に指定しました。次いで、国は、平成 15 年（2003）、「文化財保護法」の規定により、開渠部分を「史跡」に指定しました（文部科学省告示第 137 号）。指定理由の概要は、「近世の水利技術を知る上で重要であり、大都市江戸の用水供給施設として貴重な土木遺産」であるとされています⁶⁾。さらに、平成 19 年（2007）、東京都は景観法に基づく東京都景観計画を施行、「美しく風格のある東京の再生」を目標とし、玉川上水を「景観基本軸」として明確に位置付けました⁷⁾。

また、沿川には、数多くの分水網があり（千川上水・野火止用水・三田用水等）、様ざまの市民団体が玉川上水を保全する活動を展開しておられます⁸⁾。平成 24 年（2012）3 月には、最下流の新宿御苑から大木戸門に至る地区において、新宿御苑トンネルの湧出水を活用し、「玉川上水・内藤新宿分水散歩道」⁹⁾が整備され、市民の皆様の憩いの散歩道となっています。令和 7 年（2025）1 月、東京都水道局は、「史跡玉川上水整備活用計画（改訂版）」¹⁰⁾を策定され、中流域を対象として、水路・法面の保全、名勝「小金井（サクラ）」の保全、活用、植生管理を進めておられます。

3. 玉川上水を巡る新しい動向：「未来の東京」戦略

令和 3 年（2021）3 月、東京都は、新たな都政の羅針盤として「未来の東京・戦略」を策定されました。「戦略 13」として位置づけられたのが、「水と緑溢れる東京戦略」です¹¹⁾。その中で、都心の歴史的遺産である外濠は、「閉鎖性水域」であるため、大量のアオコが発生し、異臭や景観の問題が生じているため、導水が必要であることが明らかになりました。

この水源として、多摩川上流再生センターからの再生水と、荒川河川水の導水を行うことが提案され、令和 4 年（2022 年）5 月には、基本計画が策定され¹²⁾、2030 年半ばを目標として、鋭意、計画が進められています。外濠に至る導水のルートは玉川上水で、昭和 40 年（1965 年）に通水がなくなった下流域に、実に 65 年の歳月を経て、清流が戻つてきました。基本計画では、次のように述べられています。

「長期的には、玉川上水の水を元の多摩川から引き、本来の玉川上水の姿に蘇らせる可能性を展望する」（東京都「外濠浄化に向けた基本計画」、2 頁）

4. 渋谷区における「玉川上水・緑道」の現状と課題



渋谷区における玉川上水は笹塚から初台まで延長約 2.6km であり、昭和 50 年代に覆蓋化され、都市公園としての緑道が整備され、地域の人々の憩いの場として、親しまれてきました。笹塚の一部の区間（約 500m）は、「開渠として残すべき」という市民運動が実り、素掘りの開渠部が国指定の「史跡」として保存され、暗渠部も含めて、景観法に基づく「歴史的景観形成の指針適用範囲」となっています¹³⁾。

緑道整備後、40 年を経過し、渋谷区の努力によりケヤキやクスノキの大木が成長し、豊かな都市林が創り出されてきました。一方、施設の老朽化等の問題もあり、渋谷区におかれましては、再整備を行うことを決定され、地域の誇りとする空間の形成に向けて努力を続けておられます。平成 29（2017）年度より、地域住民の皆様も参加されるワークショップを継続的に開催され、令和 2（2020）年 3 月には、基本設計が決定されました¹⁴⁾。将来のイメージは、「人・街・時をつなぐ緑道」であり、玉川上水の育んできた環境をいかし、多様な人びとが憩い、交流を深め、街に活力を生み出す空間として位置づけられ、すでに一部の区間では、工事が完了し、残りの区間も、地域の様々な活動ができる広場や、遊び場の整備等が行なわれています¹⁵⁾。市民参加を取り入れ、8 年間に及ぶワークショップが行われて来ましたが、玉川上水の歴史的・文化的意義という視点からは、以下の課題があります。

第一に、基本的課題として、「江戸・東京 400 年の土木遺産及び文化資産」としての玉川上水の歴史的・文化的調査は、昭和 60 年（1985）に行われていますが、当該地域（初台～笹塚）に関する記述は不十分であり²⁾³⁾¹⁶⁾、渋谷区の都市形成に果たしてきた、重要な役割の軌跡を再整備計画に反映する必要があります。

なかでも、わかりやすい事例は 35 カ所あると報告されている旧玉川上水系の橋¹⁷⁾で、確認することができなくなっている橋もあり、橋名を刻んだ柱も破損等により損なわれているものもあります。個々の橋に関するインフォメーションは、ほとんどありません。

また、東京が、江戸から近代化の道を歩む過程で、当該地域は重要な役割を果たしてきました。当該地域には玉川上水にそって、正春寺、諦聴寺等の古刹もあり、新宿の超高層ビル群の直下に現存しています。紀州徳川家に続く「葵橋」も敷設されていました。現在、代々木公園となっている代々木練兵場の整備、これにつづく明治神宮の創建は一時期を画するもので、これらの大規模な公園緑地は、東京を代表する文化資産となっています。甲州街道から、玉川上水の代々木橋を結び、軍事道路としての「13 間道路」が敷設され、後に「西参道」となりました。当時の代々幡村の村民から石灯籠が奉納され、郷土に関する古の貴重な記録も残されています¹⁸⁾。なお、玉川上水沿いは京王電鉄発祥の地であり、現在も地下化された路線となっており、地上部には、その遺構がみられます。これらの史実の調査・分析に基づき、人々の暮らしと共に歩んできた玉川上水を「歴史と文化の重層する場」として捉え時をつないでいくことを基本とすべきです。

将来的には文化財保存活用地域計画（文化財保護法）や歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり法）等の策定により、地域の歴史や文化を育む基盤を形成していくことが重要です。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

第二に、玉川上水は、武蔵野台地を貫く「水と緑の回廊」であり、生物多様性の宝庫です。再整備計画では約50年の歳月を経て豊かに育った既存の樹林の生態系や、それぞれの樹木の樹冠・枝張り・根系等を、詳しく調査し、樹林再生の道筋を描き出すことが基本となります。生物多様性回復の原則は在来種の群落構成に基づく生態系の再生で、武蔵野の郷土種を尊重した見直しを行う必要があります。工事に伴う樹木への影響については、樹種、樹木の大きさ、生育環境に応じ、丁寧にモニタリングを行っていくことが大切です。世界的に加速化・深刻化している生物多様性の危機を回避する視点が必要であり、「生物多様性国家戦略」¹⁹⁾に準拠し、「武蔵野の杜再生プログラム」等をつくり、持続可能な都市林の形成を目標としていくことが重要です。このためには、専門家による助言と指導が必要です。

第三に、2030年代半ばの実現をめざして、銳意進められている「清流復活」の動向が、全く視野に入れられていません。玉川上水沿川には、9市4区の自治体があり、多くの市民や学術団体が玉川上水を保全・活用していくために努力を傾けてこられました。半世紀以上の時を経過し、清流が再び戻ってくるという画期的出来事は、「玉川上水を未来に繋いでいく」ために不可欠の視点であると考えます。

第四に、本来、連続する緑道が、初台地区と幡ヶ谷地区において、一部、駐車場として使用されており、分断される結果となっております。この地区は、令和6年3月に都市計画公園として都市計画決定されています。土地所有者である東京都水道局等におかれましては、渋谷区による今回の半世紀ぶりの整備にあわせて、緑道整備に御協力をいただくことが重要と存じます。

以上、玉川上水緑道の整備が、地域住民に愛されるかどうかは、地域の人たちや多くのステークホルダーの皆様と丁寧な協議を行い、納得できるようなプロセスを踏んでいくことが、なにより大切です。これまでの成果を踏まえて、江戸から373年の歴史を有する文化資産としての玉川上水を、後世に伝えていくために、日本イコモスは次の提言を行います。

5. 日本イコモス国内委員会の提言

日本イコモスは、国際記念物遺跡会議 (International Council on Monuments and Sites、本部パリ) の国内委員会で、「建造物、伝統的建築群、文化的景観、その他の文化遺産の保存・活用を推進するために、調査、研究、外部への提言及び助言、専門家の派遣や育成などを行っています。

提言1：歴史・文化の尊重及び国指定「史跡」との関連を踏まえた保全・再生

渋谷区における玉川上水の歴史・文化を踏まえた調査を行い、土木遺産、文化資産、既存樹林、樹木等の保全すべき対象を明確にすべきです。その上で、再生への目標と道筋を



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

明らかにし、具体的なロードマップを作成することを提言します。

再整備の対象地には、開渠で残された素掘りの玉川上水が、国指定「史跡」として残されています。市街地における貴重な土木遺産ですが、現状は、高い柵に囲まれ、インフォメーションも十分ではなく、街とのつながりは稀薄です。所管されている東京都水道局や隣接する世田谷区等と協議を行い、「史跡を活かしたまちづくり」を行うことを提言いたします。また、将来的には、文化財保存活用地域計画（文化財保護法）や歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり法）等の策定により、文化的資産の維持・継承に向けた確たる基盤の形成が重要です（資料1）。

提言2：生物多様性と武蔵野の杜

生物多様性国家戦略に基づき、武蔵野台地の生態系を踏まえ、郷土の固有種の群落構成に準拠した、「武蔵野の杜再生プログラム」をつくりだすことを提言いたします。渋谷区には、17世紀初頭に整備された「井伊家・林泉」に由来する雑木林が、明治神宮内苑の「御苑」において、手厚く保護・継承されています。その結果、ここには涸れることのない清正井が維持されており、生物多様性と環境の持続的維持の国際的モデルとなっています。人と共に400年の歳月を歩んできた自然環境の再生を目指とし、渋谷区が「生物多様性国家戦略」をリードしていく役割を担われることを期待いたします（資料2）。

提言3：「清流復活」を見据えた柔軟な設計

2030年代半ばの「清流復活」を見据えて、安全で安心な暮らしを支え、生物多様性を育む水辺の導入が可能となるよう、変化に対して、柔軟に対応しうる設計内容に変更することを提言いたします。このためには、東京都、隣接する世田谷区、杉並区、新宿区等と協議の場を設けることを提言いたします（資料3）。

提言4：既存樹林の保全と回復

早急に取り組まなければならないことが、この間の樹林への過度の利用、生態系の変化等により影響を受けている樹林の保全と回復です。持続可能な健全な森を、今後100年以上にわたり継承していくためには、病虫害に侵された樹木や外来種の除去、間伐、土壤の改良等を行っていかなければなりません。工事に伴う樹木への影響については、きめ細かなモニタリングを行い、健全な森の形成を行っていく必要があります。ちなみに、日本を代表する伊勢神宮の杜では、千年の計画にもとづき、適宜、間伐を実施し、健全な林分の形成を行っておられます。

森は、雨水を吸収し、気温を遮減させ、しかも多くの人々に安らぎと憩いの場を提供するかけがえのない社会の財産です。渋谷区におかれましては、隣接する代々木公園や明治神宮内苑とのネットワークを重視され、玉川上水の歴史的・文化的価値を損なわないよう、既存樹木の保全と回復を緻密に行っていかれますことを提言いたします（資料4）。



提言 5：桜の回廊の尊重

玉川上水の中流域には、小金井桜と呼ばれる並木があり、大正 13 年（1924）に、「史跡名勝天然記念物保存法」により、名勝「小金井（サクラ）」に指定されています。小金井桜の起源は、元文 2 年（1737）頃であり、幕府は新田地域の活性化のため、武蔵野新田世話役の川崎平右衛門完孝に命じ、小金井橋を中心に、ヤマザクラを植えさせたと言われています。江戸期には、飛鳥山、御殿山と並び、花見の名所として活況を呈していました。爾来、100 年を経過し、東京都水道局、小金井市、市民により保全・再生活動が行われています。

渋谷区の玉川上水緑道にも、数多くの桜が植えられていますが、いずれもソメイヨシノであり、老木となり、どのように更新していくかが大きな課題となっています。

現在の再整備計画には、この視点が欠落しており、同じ玉川上水の小金井桜の調査をふまえて、保全と更新、そしてソメイヨシノにかわる樹種の検討を行うことを提言いたします。玉川上水の下流には新宿御苑があり、日本の桜の様々な品種が集められています。当該地域の見直しを行うことにより、小金井～渋谷区玉川上水～新宿御苑～外濠～皇居に連なる「桜の回廊」を、次世代に手渡していくことができます（資料 5）。

提言 6：近代を代表する産業遺産、文化資産との連携

玉川上水緑道の初台、代々木地区は京王電鉄発祥の地であり、京王線が地下をはしっておおり、近代鉄道の遺構も残っています。現在の代々木公園は、明治 42 年（1909）に代々木練兵場が設置された地であり、これにあわせて、13 間道路（幅員約 23.6m）が整備されました。明治神宮の造営に伴い、この道路は「西参道」となり、今日にいたります。ここには、大正 10 年（1921）に設立された東京乗馬俱楽部があり、隣接地は渋谷区立ポニー公園として、多くの子どもたちの体験の場となっています。

しかしながら、西参道と玉川上水の交わる重要な地区は、都市計画公園として決定されていますが、現在、東京都水道局等が所管する駐車場となっており、玉川上水緑道は、ここで、分断されています。東京のかけがえのない文化遺産を、今後のまちづくりに活かしていくために、将来的には文化財保存活用地域計画（文化財保護法）や歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり法）等の策定も見据え、東京都、渋谷区等が連携して、取り組まれることを提言いたします（資料 6）。

玉川上水緑道の再整備にあたっては、継続的なワークショップが開催され、これにより、多数の請願、要望、意見書が提出されてきました。

玉川上水は国民の財産であり²⁰⁾、多くの皆様がその将来動向を見守っておられます。渋谷区におかれましては、様々な御意見に、今後も、真摯に耳を傾けられ、後世に手渡していくことのできる玉川上水緑道の整備を遂行されますよう提言いたします。



参考文献

- 1) 東京市編(1923)、『東京市史稿上水篇第二卷』
- 2) 東京都教育委員会(1986) :『玉川上水文化財調査報告書—その歴史と現況』
- 3) 東京都教育委員会(1995) :『玉川上水現況調査報告書』
- 4) 東京都水道局 :「玉川上水の清流の復活」
<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pr/tamagawa/rekishi>
最終閲覧 2025年11月21日
- 5) 東京都環境局 (2025) :東京都歴史環境保全地域一覧
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/natural_environment/tokyo/tokyo_rekisi_kankyo 最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 6) 東京都水道局 :「国の史跡指定について」
<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pr/tamagawa/tama02>
最終閲覧 2025年11月21日
- 7) 東京都景観計画 (2021)
https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/ryokuchi_keikan/kekan_kese/keikan/machinami_01 最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 8) 辻野五郎丸(2020) :「玉川上水・分水網関連遺構 100選の評価と冊子・展示資料の作成」
発行者 公益財団法人東急財団、研究助成・一般研究 VOL. 42-N0. 250.
- 9) 新宿区 (2023) :玉川上水・内藤新宿分水散歩道
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file14_02_00001.html
最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 10) 東京都水道局(2025)「史跡玉川上水活用計画(改訂版)～江戸の史跡を護り未来へつなぐ」
<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pr/tamagawa/2025seibikaitei/>
最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 11) 東京都(令和3年3月) :「未来の東京」戦略
<https://www.sp.metro.tokyo.lg.jp/seisakukikaku/mirainotokyo-senryaku/html5.html#page=267> 最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 12) 東京都(令和4年5月) :「外濠浄化に向けた基本計画」
<https://www.spt.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2022/05/24/documents/0301.pdf> 最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 13) 東京都都市計画情報 : 景観計画、歴史的景観形成の指針の適用範囲 (渋谷区)
https://www2.wagmap.jp/tokyo_tokeizu/Map?mid=3&mpx=139.70827190270913&mpy=35.67032694261165&bsw=1075&bsh=568 最終閲覧 2025年 11月 21 日
- 14) 渋谷区 (2020) :玉川上水旧水路基本設計
- 15) 渋谷区 (2025) : 玉川上水旧水路再整備の概要 — 渋谷区公式サイト
<https://files.city.shibuya.tokyo.jp/assets/12995aba8b194961be709ba879857f70>



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

/3146ade4671845bdb028f8fb917aac5/ryokudouseibi_naiyou.pdf

最終閲覧 2025年 11月 21日

- 16) 渋谷区白根記念郷土文化館 (1985) :『渋谷の玉川上水』
- 17) 渋谷区教育委員会 (1996) :『渋谷の橋』
- 18) 堀切森之助・編集 (1993) :『幡ヶ谷郷土誌（復刻版）』
- 19) 環境省 (2023) :「生物多様性国家戦略 2023-2030 ~ネイチャーポジティブに向けたロードマップ」<https://www.env.go.jp/content/000124381.pdf> 最終閲覧 2025年 11月 21日
- 20) 東京都水道局 (2006) :『上水記』

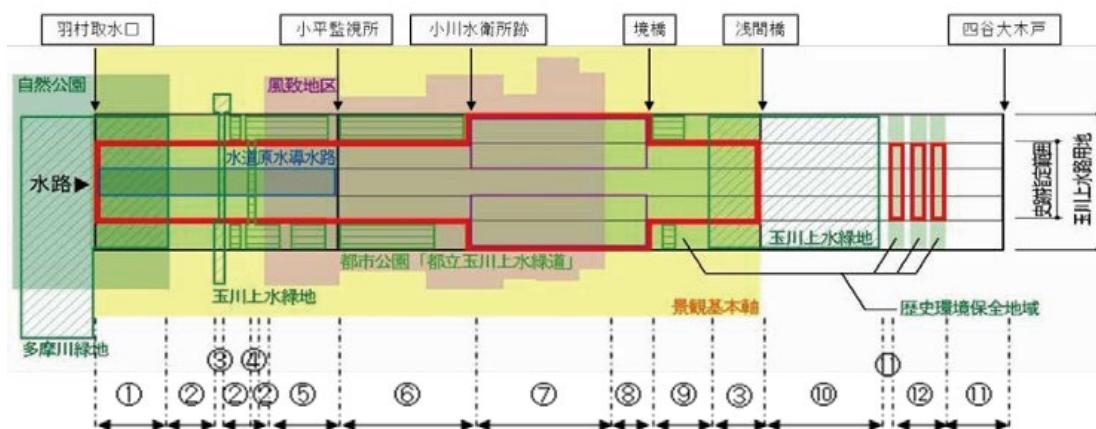
資料 1－1 玉川上水・史跡指定のエリア



区間	範囲
上流部	羽村取水口～小平監視所
中流部	小平監視所～浅間橋
名勝指定区間	小川水衛所跡～境橋
下流部	浅間橋～四谷大木戸（ただし、開渠区間のみ）

出所：東京都水道局(2025)：『史跡玉川上水活用計画（改訂版）～江戸の史跡を護り未来へとつなぐ』47 頁。

資料 1-2 玉川上水に係わる関連法令・計画等



注) 下流部の 3 カ所の史跡は、東京都玉川上水歴史環境保全地域にも指定されている。

出所：東京都水道局(2025)：『史跡玉川上水活用計画（改訂版）～江戸の史跡を護り未来へとつなぐ』60～61 頁。

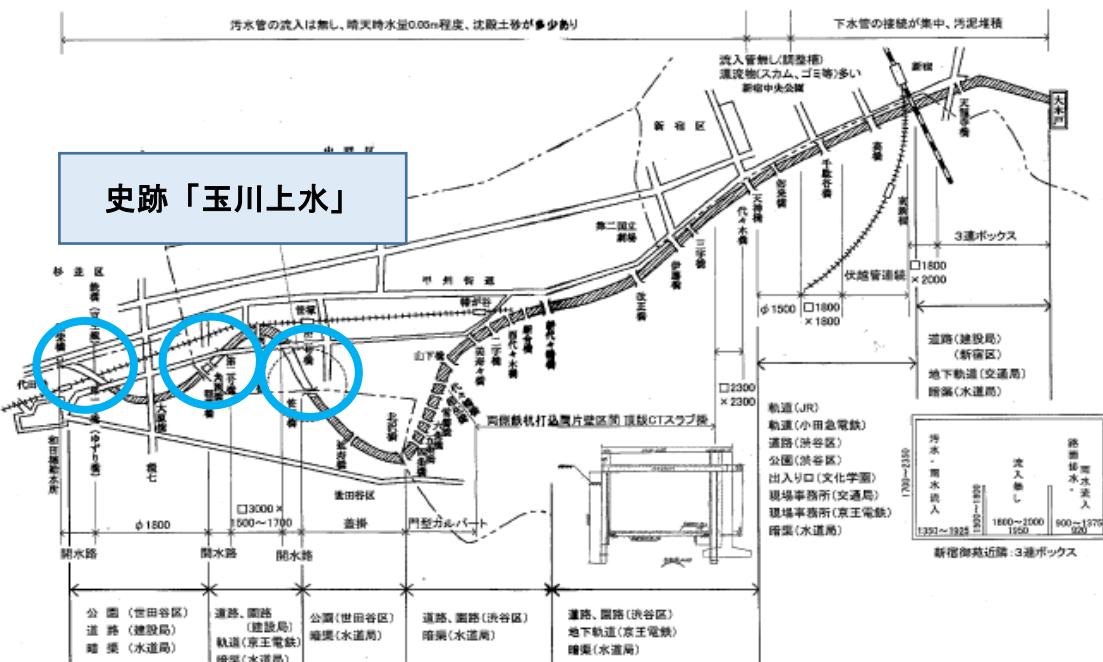


指定区域名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
史跡「玉川上水」	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
名勝「小金井（サクラ）」							○	○				
玉川上水風致地区					○	○	○					
都市計画玉川上水緑地			○						○			
都市計画多摩川緑地	○											
都立羽村草花丘陵自然公園	○											
玉川上水歴史環境保全地域	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
玉川上水景観基本軸	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
水道原水導水路	○	○	○	○	○							
都市公園「都立玉川上水緑道」			○									

*⑩⑪（灰色の網掛け部分）は、史跡指定範囲外

*玉川上水景観基本軸については、平成19年から景観法に基づく東京都景観計画に位置づけられている。

資料 1-3 玉川上水下流部における史跡「玉川上水」指定区域



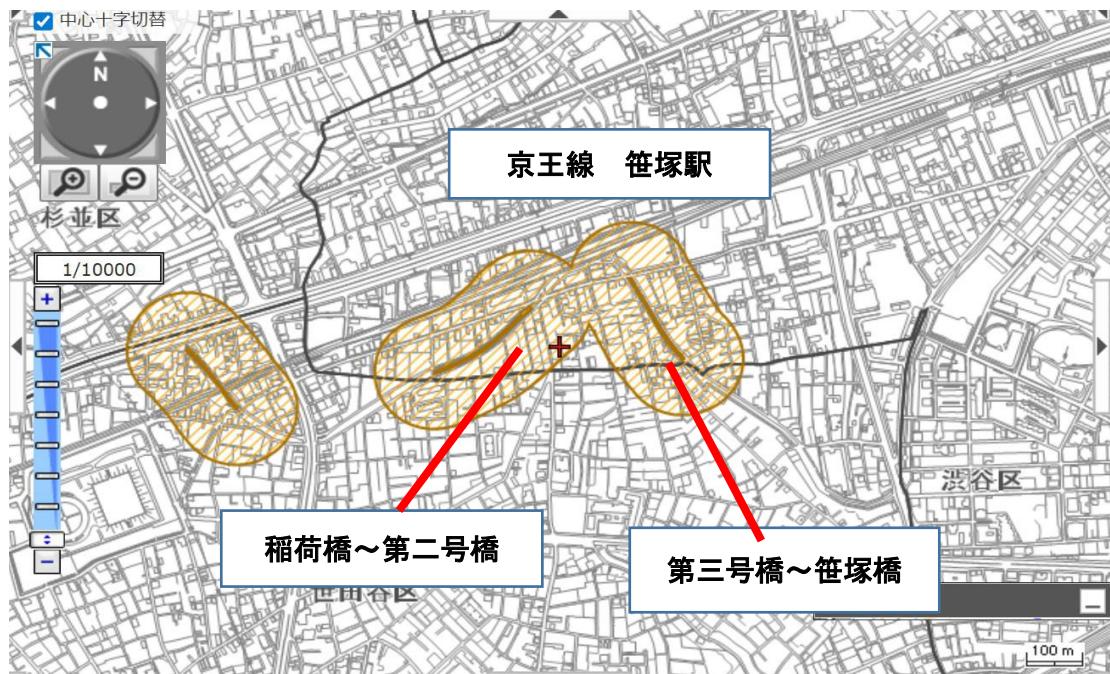
出所：東京都教育委員会(1995)：『玉川上水現況調査報告書』13 頁、

東京都新宿区(2007)：「玉川上水を偲ぶ流れの創出に関する検討会」第二回参考
資料より構成。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料 1-4 東京都景観計画における「歴史的景観形成の指針の適用範囲」
—玉川上水下流部—



出所：東京都景観計画（2021）



稻荷橋～第二号橋（史跡）



笹塚緑道（歴史景観形成指針適用区域）



南ドンドン橋（2026年1月1日撮影）

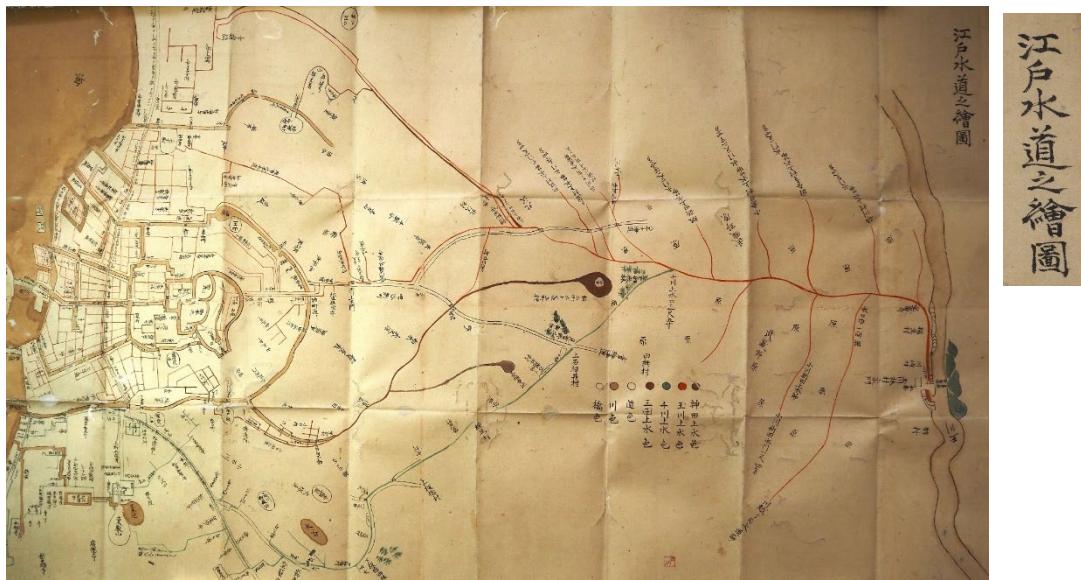


第三号橋～笹塚橋（史跡）



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

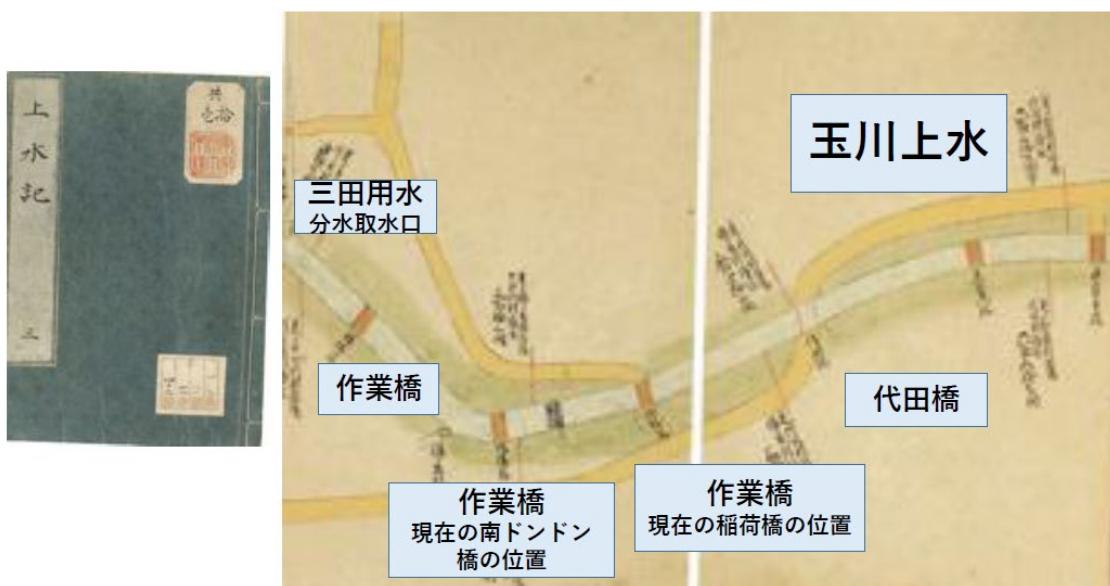
資料 1-6 江戸水道之絵図



所蔵：戸川家。江戸時代の戸川家は幕府の役人を代々勤め、二代目安広が、書院番、四代目村由が小普請組支配、七代安栄が書院番頭を勤めていた。今回、玉川上水の保全のために、公開を申し出られた。

資料 1-7 『上水記』（寛政 3 年、1791 年）に記載されている橋名

代田橋～三田用水～摂津守橋～延寿橋～代衛右門橋～四ツ谷大木戸まで（抜粋）



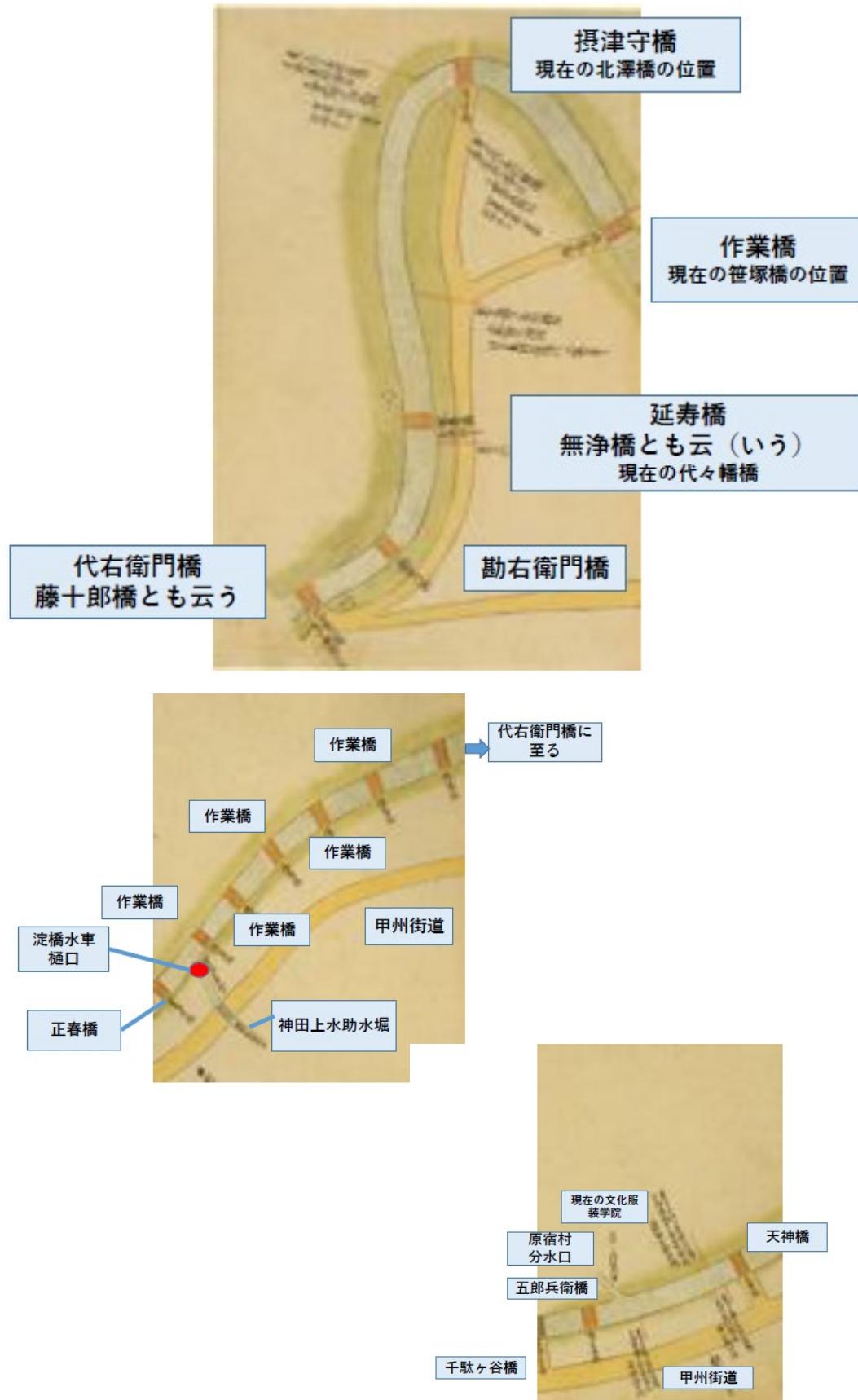
出所：『上水記』（寛政 3 年、1791 年）

著者：江戸幕府普請奉行上水道方・石野遠江守広通

所蔵：東京都水道局 昭和 52 年（1977） 東京都指定有形文化財（古文書に指定）



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org





ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料 1-8 現在の玉川上水下流部の橋（抜粋）

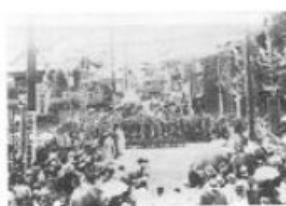


コンクリート橋、大正13年11月竣工

「相生橋」、「阿以をいばし」（万葉仮名）の橋名が残っているが、劣化が進んでおり、適切な保全が必要である。



21. 改正橋（初台駅前）



・道路改正により、昭和4年に架け替えられた橋。
 写真は、改正橋の開通式。
 出所：渋谷区教育委員会（平成8年）『渋谷の橋』
 ・地域のコミュニティに溶け込んだ橋となっている。

24. 三字橋（みあざ橋）



三つの字である、新町・初台・山谷へ至る地点に架けられた橋であるため、三字橋と名付けられた。
 昭和3年11月に架け替えられた橋と欄干、水道管が現存しており、保全が必要である。林間の原っぱは、子どもたちの遊び場となっている。





ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

25. 代々木橋 西参道 橋柱、現在はない

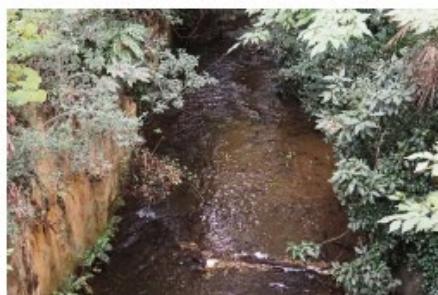


大正12年、代々幡村から明治神宮に奉獻された石灯籠が、据えられている。
この地点から、新宿熊神社方面へ「助介堀」が設けられていた。
新宿副都心の超高層ビルを背景とし、正春寺と大イチョウが存在している。



結び

このように、都市化が進んだ渋谷区においても、『上水記』（寛永3年、1791年）に記載されている玉川上水の橋が数多く残っていることがわかった。「土木遺産」は文化の重層を物語る貴重な「歴史の証人」である。玉川上水中流域では、東京都がこの重要性に鑑み、「玉川上水橋梁群整備」を行い、市民に親しまれている。下流域においても、東京都・渋谷区・世田谷区・新宿区が協働し、実現に移すべきと考える。



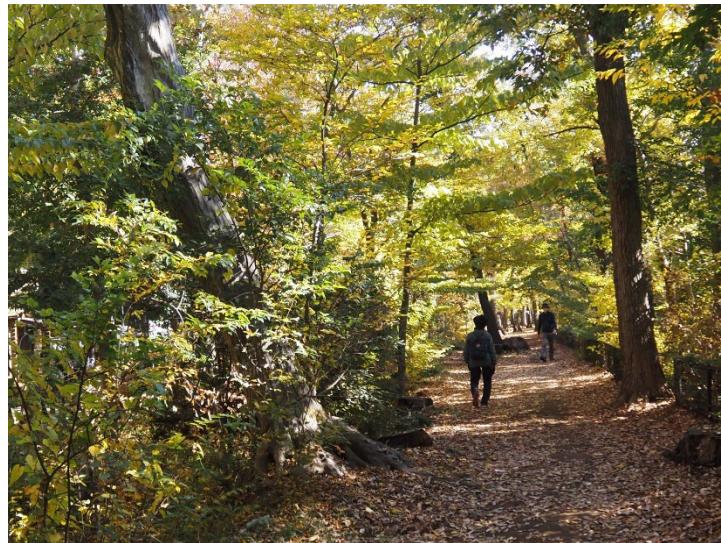
津田塾大学に隣接する久衛門橋（小平市）の「玉川上水橋梁群整備」のプレート。
清流が復活し、往時の面影をとどめている。





ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料2 生物多様性と武藏野の杜



「生命の回廊をつなぐ」 上流部～中流部（写真・小平市）～下流部



常緑落葉混交林



多様な地被植物（ティカカズラ）



生命の饗宴（豊かな湿地植物群落） 初秋に咲くツルボ *Barnardia japonica*



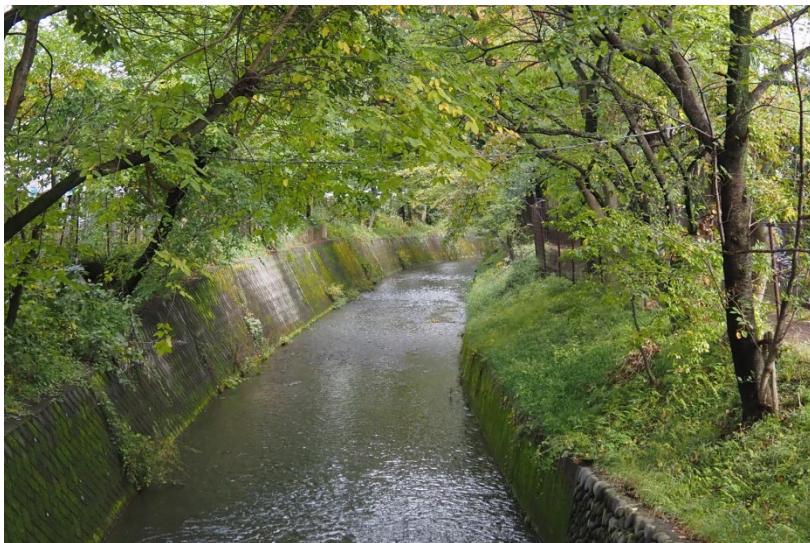
史跡（第三号橋～笹塚橋までのエリア）に見られる湿地植物群落。開渠であり、陽光が
降り注ぎ、雨水等が流れているため豊かな群落が発達しており、野鳥もみられる。

生物多様性の宝庫。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料3－1 清流復活



上流部、最後の地点における玉川上水（清願院橋からの風景）
羽村で多摩川から取水された用水は、すべて東村山浄水場に送られ、都民を支えている。



小平監視所



碑文「玉川上水 清流の復活」



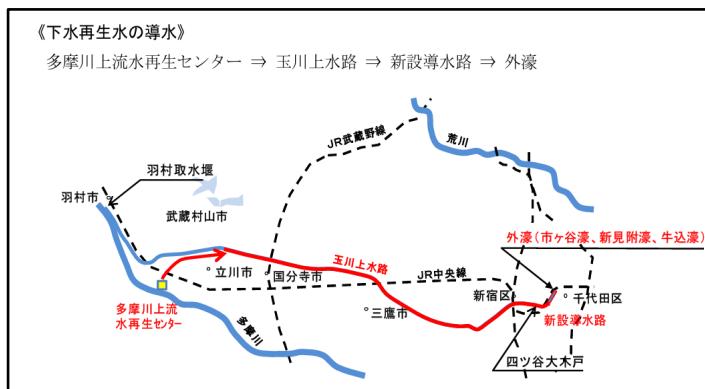


資料3－2 未来の東京戦略：外濠浄化に伴い「玉川上水下流部に水が戻ってきます」 多摩川上流域水再生センター～玉川上水下流部～新設導水路～外濠

戦略13 水と緑溢れる東京戦略

目標	水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京																					
強化のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 公園や農地など、あらゆる場所で緑を創出・保全し、緑溢れる都市を形成 地域の魅力創出やまちづくりにつなげるため、隅田川を中心とする水辺空間の整備を推進 外濠の水辺再生に向けて、水质改善やまちづくりに向けた気運の醸成等を実施 																					
政策目標	<table border="1"> <tr> <td>① 緑創出の取組を推進</td> <td>② 農地を保全</td> <td>③ 保全地域を指定</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 都立公園130haを新規に開園（2030年度目標） 累計2,168ha（2026年度目標）新規開園約60ha 累計2,098ha （2021年度実績）新規開園7.5ha 累計2,045ha </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 海上公園107haを新規に開園（2028年度目標） 累計980ha（2026年度目標）新規開園約67ha 累計940ha （2022年度実績）累計878ha </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 農地の里山景観地区の指定（累計）10か所 → 15か所（2026年度目標）9か所 （2021年度実績）5か所 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">緑溢れる東京プロジェクト</td> </tr> <tr> <td>④ 日本橋周辺の街並みを再生</td> <td>⑤ 河川空間を活用したにぎわいを創出</td> <td>⑥ 外濠の水質を改善</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 日本橋周辺の首都地下化事業完了（2021年度実績） 地下化に向けて工事中 まちづくりの機会を捉えた水辺再生プロジェクト </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 水辺ににぎわい空間の創出（2030年度目標）4エリアで推進（2026年度目標）4エリアで推進（2021年度実績）3エリアで推進 1エリアごとに河川空間と調整等実施 隅田川テラスの開放（2030年度目標）（2026年度目標）36.6km 47.5km（全川完成）（2021年度末時点）34.3km </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 外濠の浄化 導水などによる水質改善の進展（2021年度実績）詳報調査・基本計画検討 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">⑦ 水道水源林を保全管理</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> （2020～2024年度の5か年目標）水源林の保全作業 3,000ha（2021年度実績）586ha ※（2020～2021年度実績）1,188ha 安全でおいしい水の安定供給と良好な水循環プロジェクト </td> </tr> </table>	① 緑創出の取組を推進	② 農地を保全	③ 保全地域を指定	<ul style="list-style-type: none"> 都立公園130haを新規に開園（2030年度目標） 累計2,168ha（2026年度目標）新規開園約60ha 累計2,098ha （2021年度実績）新規開園7.5ha 累計2,045ha 	<ul style="list-style-type: none"> 海上公園107haを新規に開園（2028年度目標） 累計980ha（2026年度目標）新規開園約67ha 累計940ha （2022年度実績）累計878ha 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の里山景観地区の指定（累計）10か所 → 15か所（2026年度目標）9か所 （2021年度実績）5か所 	緑溢れる東京プロジェクト			④ 日本橋周辺の街並みを再生	⑤ 河川空間を活用したにぎわいを創出	⑥ 外濠の水質を改善	<ul style="list-style-type: none"> 日本橋周辺の首都地下化事業完了（2021年度実績） 地下化に向けて工事中 まちづくりの機会を捉えた水辺再生プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺ににぎわい空間の創出（2030年度目標）4エリアで推進（2026年度目標）4エリアで推進（2021年度実績）3エリアで推進 1エリアごとに河川空間と調整等実施 隅田川テラスの開放（2030年度目標）（2026年度目標）36.6km 47.5km（全川完成）（2021年度末時点）34.3km 	<ul style="list-style-type: none"> 外濠の浄化 導水などによる水質改善の進展（2021年度実績）詳報調査・基本計画検討 	⑦ 水道水源林を保全管理			<ul style="list-style-type: none"> （2020～2024年度の5か年目標）水源林の保全作業 3,000ha（2021年度実績）586ha ※（2020～2021年度実績）1,188ha 安全でおいしい水の安定供給と良好な水循環プロジェクト 		
① 緑創出の取組を推進	② 農地を保全	③ 保全地域を指定																				
<ul style="list-style-type: none"> 都立公園130haを新規に開園（2030年度目標） 累計2,168ha（2026年度目標）新規開園約60ha 累計2,098ha （2021年度実績）新規開園7.5ha 累計2,045ha 	<ul style="list-style-type: none"> 海上公園107haを新規に開園（2028年度目標） 累計980ha（2026年度目標）新規開園約67ha 累計940ha （2022年度実績）累計878ha 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の里山景観地区の指定（累計）10か所 → 15か所（2026年度目標）9か所 （2021年度実績）5か所 																				
緑溢れる東京プロジェクト																						
④ 日本橋周辺の街並みを再生	⑤ 河川空間を活用したにぎわいを創出	⑥ 外濠の水質を改善																				
<ul style="list-style-type: none"> 日本橋周辺の首都地下化事業完了（2021年度実績） 地下化に向けて工事中 まちづくりの機会を捉えた水辺再生プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺ににぎわい空間の創出（2030年度目標）4エリアで推進（2026年度目標）4エリアで推進（2021年度実績）3エリアで推進 1エリアごとに河川空間と調整等実施 隅田川テラスの開放（2030年度目標）（2026年度目標）36.6km 47.5km（全川完成）（2021年度末時点）34.3km 	<ul style="list-style-type: none"> 外濠の浄化 導水などによる水質改善の進展（2021年度実績）詳報調査・基本計画検討 																				
⑦ 水道水源林を保全管理																						
<ul style="list-style-type: none"> （2020～2024年度の5か年目標）水源林の保全作業 3,000ha（2021年度実績）586ha ※（2020～2021年度実績）1,188ha 安全でおいしい水の安定供給と良好な水循環プロジェクト 																						
3か年のアクションプラン（強化した主なアクションプラン）	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">具体的な取組</th> <th rowspan="2">2022年度末（見込み）</th> <th colspan="3">年次計画</th> </tr> <tr> <th>2023年度</th> <th>2024年度</th> <th>2025年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人々が憩う外濠の水辺再生</td> <td>導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用検討など</td> <td>導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用設計など</td> <td>導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計など</td> <td>導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計・工事施工など</td> </tr> <tr> <td>都立公園の新規拡張整備</td> <td>練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進</td> <td>練馬城址公園（新規開園）・六仙公園等、用地取得・整備推進</td> <td>練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進</td> <td>練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進</td> </tr> </tbody> </table>	具体的な取組	2022年度末（見込み）	年次計画			2023年度	2024年度	2025年度	人々が憩う外濠の水辺再生	導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用検討など	導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用設計など	導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計など	導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計・工事施工など	都立公園の新規拡張整備	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園（新規開園）・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進			
具体的な取組	2022年度末（見込み）			年次計画																		
		2023年度	2024年度	2025年度																		
人々が憩う外濠の水辺再生	導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用検討など	導水に向け必要となる施設の基本設計・既存施設の活用設計など	導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計など	導水に向け必要となる施設の基本設計・詳細設計・工事施工など																		
都立公園の新規拡張整備	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園（新規開園）・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進	練馬城址公園・六仙公園等、用地取得・整備推進																		

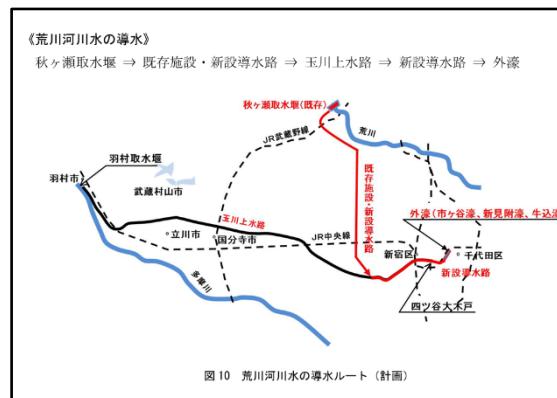
<https://www.sp.metro.tokyo.lg.jp/seisakukikaku/versionup2023/index.html#page=124>



二つのルート：

大災害に備える基本的インフラ

- ・多摩川上流水再生センター
～玉川上水～新設導水路～外濠
- ・秋ヶ瀬取水堰～既設・新設導水路
～玉川上水～外濠





ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料3－3 よみがえった「水の道」 玉川上水・内藤新宿分水散歩道

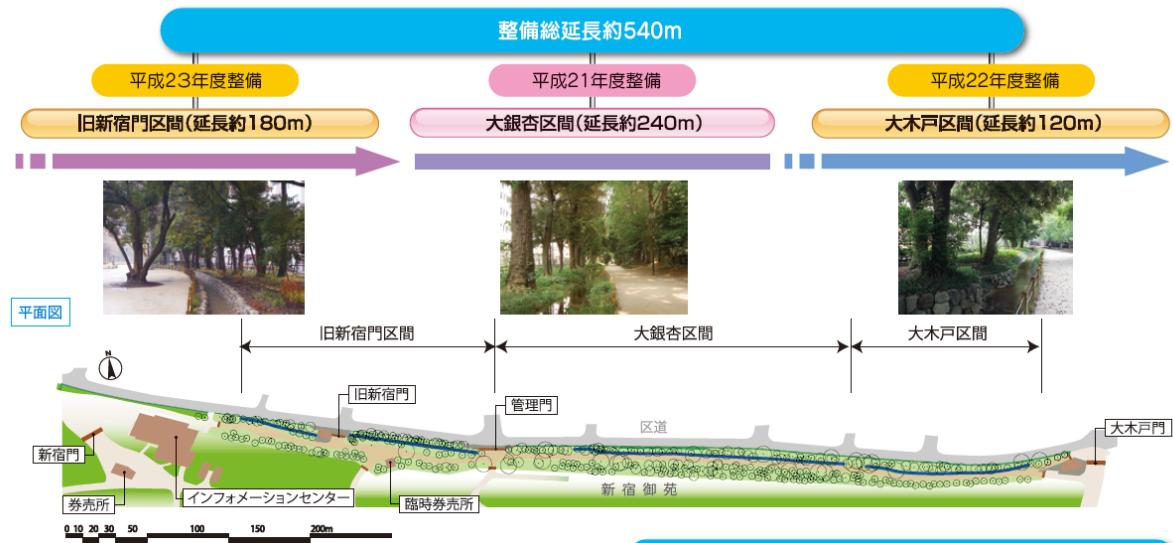
https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file14_02_00001.html



新宿御苑トンネルの湧出水を活用し、玉川上水を偲ぶ流れを創り出した。
環境省、東京都、新宿区、渋谷区、地元町会、小学校、大学の連携で実現



玉川上水・内藤新宿分水散歩道の紹介





ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料4 既存樹林の保全と回復

玉川上水緑道には、50年前は、ほとんど樹林地が存在しなかった。渋谷区により、都心には稀な「都市林」が創り出されてきたことは、高く評価されなければならない。現在、過度の利用による林床の荒廃、土壌の硬化、外来種の繁殖、世代交代による枯損等が生じており、目標とする「都市林」の具体像を明らかにし、既存樹林の保全と回復をきめ細かに行っていかなければならない。



改正橋～伊東小橋地区のケヤキ並木。優れた都市林が形成されている
(撮影 2026年 1月2日)



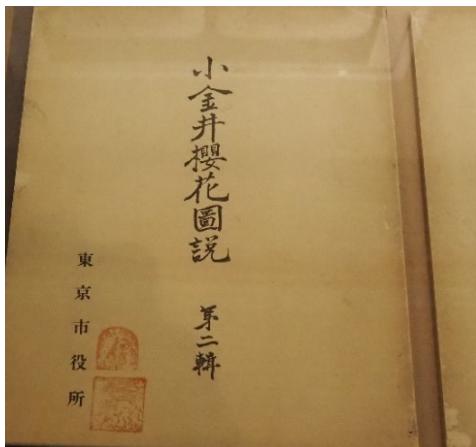
四条橋～五条橋の間の改良工事（2025年 8月）

緑道の再生にあたっては、根系調査を綿密に行い、50年を経過した樹木が、今後、健全に生育していく環境を創り出していくことを、基本に据えるべきである。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料5 名勝：小金井（サクラ）



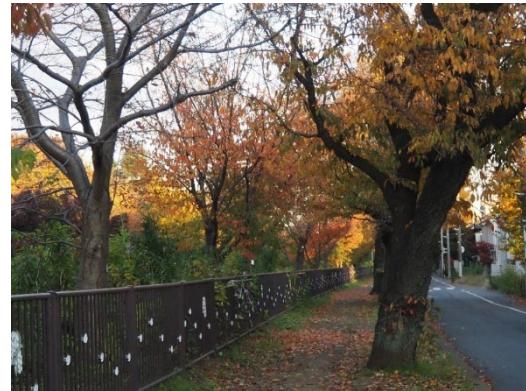
東京市役所 小金井櫻花図説



富士見櫻



「さくら折るべからず」
石碑 嘉永4年（1851年3月）



保全・再生が行われている小金井櫻
小金井橋 撮影 2025年11月19日



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

資料6 近代を代表する産業遺産、文化資産との連携 明治神宮内苑と西参道及び玉川上水

内苑

外苑

連絡道路 parkway

西参道

大正12年、代々幡村から明治神宮に奉獻された石灯籠が、据えられている。
この地点から、新宿熊神社方面へ「助介堀」が設けられていた。
新宿副都心の超高層ビルを背景とし、正春寺と大イチョウが存在している。



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

明治神宮内苑、



明治神宮内苑隣接地にある東京乗馬クラブと渋谷区立ボニー公園（乗馬の歴史を伝える）



東京乗馬俱楽部

子供たちに大人気の渋谷区立ボニー公園



水資源の枯渇により、失われた明治神宮内苑の小川。

水のない小川にも、人々はつどっている。